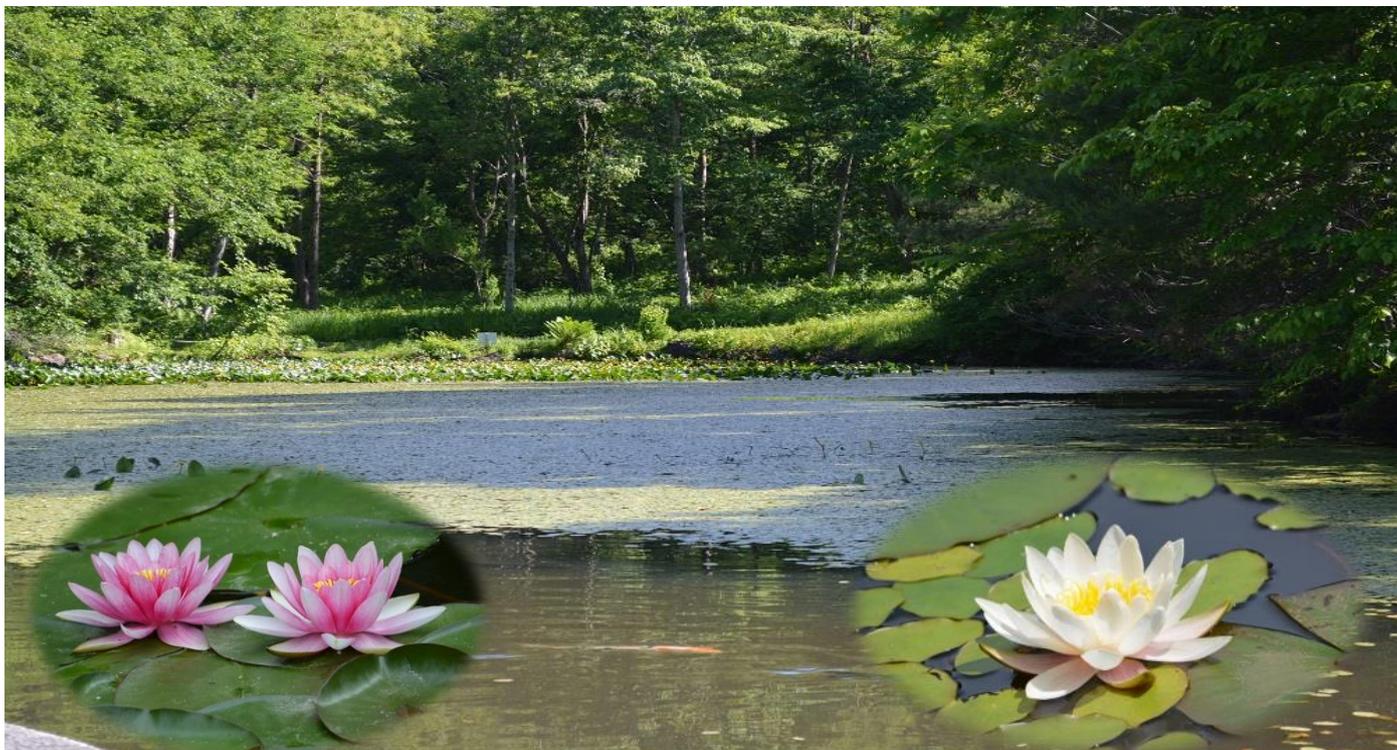


各 位

平成29年7月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



—— 水草が見頃な「ひょうたん池」 ——

「ひょうたん池」には白いスイレンやオゼコウホネ、「大平沼」にはヒツジグサ等が涼しげに咲いています。

〈スイレン〉…水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということで付きました。

梅雨の季節、野草園の「大平沼」や「ひょうたん池」にはスイレンの仲間(スイレン、ヒツジグサ、オゼコウホネなど)が鮮やかな姿を見せています。また、園内南側の道路の両側には雨に映える花「エゾアジサイ」が咲き誇っています。6月末から7月の第1・2週には『ホタル観察会』を行い、夏の夜の自然の神秘を楽しみます。

現在にぎやかに開花している花は多くありませんが、雨上がりは特に新鮮な緑のにおいを強く感じます。どうぞ森林浴も目的の1つにして、野草園の花たちに会いにお出かけ下さい。

7月上旬～下旬の野草園

◆『ホタル観察会』 ※6月23日(金)～25日(日)はホタルの状況により延期となりました。

○日 時 6月30日(金)、7月1日(土)、2日(日)、7日(金)、8日(土)、9日(日) 19:30～20:30

○場 所 野草園内 「ウランウデの庭」前の水路付近 (状況により「ミズバショウの谷」近辺)

○内 容 職員の案内でホタルを観察し、より多くの方々にホタルを鑑賞していただき、夏の夜を楽しむとともに、自然保護に関心を持っていただく。料金は入園料のみ。

○服装等 長袖、長ズボン、雨具 ★申込みは野草園まで。Tel 634-4120

◆『無料開放日』 7/2(日) 9:00～18:00 (入園は17:00まで) …市制施行128周年を記念して。

◆『山野草販売』 ……7/2(日) 10:00~16:00

○内 容 業者による山野草の販売。 ○場 所 本園 学習センター前

◆『絶滅危惧植物パネル展』

○期 間 7/15(土) ~ 8/20(日) 9:00~18:00 ○場 所 本園 学習センター内

○内 容 絶滅が心配される植物のパネルを展示し、自然愛護の心を育てて頂く。

◆「四季観察会 ②」 ~シダ植物~ 講師：佐竹恵一氏

○日 時 7/19(水) 10:00~12:00 - (昼食) - 13:00~15:00

○場 所 午前中は学習センターに集合し、園外(羽竜沼)へ。午後は園内散策。

○内 容 野草園から羽竜沼周辺へ出かけ、この季節の植物、特にシダ植物について学びます。午後は園内を散策します。

申込みは野草園まで Tel634-4120 参加費：100円(入園料別)

★★「ガイドウォーキング」 7/2(日)、9(日)、16(日)、17(月)、23(日)、30(日)

○時 間 午前の部 ①回目 10:00~11:00、 ②回目 11:00~12:00

午後の部 ③回目 13:00~14:00、 ④回目 14:00~15:00

○内容 … ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要。もちろん無料です。今まで知らなかった花、不思議な花を見てつけてみませんか。

★★「ラベンダースティック教室」

○日 時 7/22(土)・29(日) 10:00~12:00 ○講師：ハーブライフ&ガーデン 佐竹文子氏

○場 所 本園学習センターピロティ ○内 容 野草園のラベンダーを使ったスティック作り。

○対 象 先着30名。申込は野草園までTel634-4120 ○費用：スティック1本当たり200円(入園料別)

★★「木工工作教室」

○日 時 7/23(日)30(日)8/6(日)10:00~12:00 ○場 所 本園学習センターピロティ付近

○内 容 野草園の木の枝や道具を使って、自由に工作を作ります。 ○費用：参加費は入園料のみ

○対 象 小学生の親子 各日先着20組。 申込は野草園まで Tel634-4120

野草園の花たち

※次に、この時期楽しめる植物を掲載します。



トビシマカンゾウ(ススキノキ科)

海の近くに生える多年草です。草丈が高い点を除いてはニッコウキスゲと区別点は見いだせなく、海岸という立地に基づく生態型(島嶼型)であろうと考えられています。飛島では全島にわたって広く分布しています。この花や蕾をとって食用にしたり、葉は稲わらの代用として島民の生活に利用されていたそうです。



ホタルフクロ(キキョウ科)

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどの方言がある、山野に生える多年草です。茎の上部に大きな鐘形の花をつけます。花は淡紅紫色または白色で、先は5裂します。萼片のところこそり返った附属体があります。そり返らないのは、ヤマホタルフクロです。名は蛍袋で、ホタルを入れて遊んだからと言われているそうです。



ヒツジグサ(スイレン科)

この辺の湖沼群のどこの沼でも見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8～15個あり、長さは萼片とほぼ同じです。名は未草(ヒツジグサ)で、未の刻(午後2時)に開くことによります。そして、夕方には閉じてしまいます。



ウメガサソウ(ツツジ科)

常緑の多年草。東アジアの温帯～亜寒帯に分布し、日本では海岸や山地の林内に自生します。茎の高さは10～15cm、茎頂に長い花柄を直立し、ウメに似た白色で5弁花状の花を下向きに開きます。本園では地図番号の 24 辺りに多く生育しています。



キンコウカ(キンコウカ科)

山地帯～高山帯の湿地や湿原に生える多年草で、群生して咲いています。開花直前のつぼみの花被片は外面中央が緑色になっていて、開花すると花糸に縮れ毛が密生します。総状に多数の黄色い花をつけて私たちの目を楽しませてくれた後、花被片は緑色になります。名は花色から金光花(キンコウカ)と思われます。



ヤナギラン(アカバナ科)

山地の日当たりのよいところに生える多年草です。茎は直立して分岐しなく、葉は互生し披針形で葉柄はなく裏面は帯白色です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、だんだん下から上へ咲き上がります。先駆植物で、山野が工事跡などで荒れると進出しますが、木が茂ると姿を消します。名は花が美しいランに、葉が柳に似ていることによります。



ラベンダー(シソ科)

地中海沿岸地方原産の常緑小低木です。茎は小枝を多く分枝し、葉は線状被針形です。夏、枝先に花穂をつけ、淡紫色の唇形花を多数開きます。数あるハーブの中でも、人気の高いのが本種で、草全体から良い香りを放つため「香りの女王」とも呼ばれます。花を蒸留して揮発性のラベンダー油をとり、香料・薬用とするそうです。



ムシャリンドウ(シソ科)

茎先に青紫色の花を固まってつけ、花の長さは 3 cm くらいで、唇形です。下唇が発達していて、濃い紫色の斑が入り、羅生門蔓(ラショウモンカズラ)にやや似ています。下部の葉には柄があり、披針形です。葉は幅の広い線形で、向かい合って生える対生です。また、葉の脇から数対の線形の葉をつけた短い枝が出ます。



オカトラノオ(サクラソウ科)

山地や丘陵などの日当たりのよい草地に多い多年草です。茎は円柱形で直立し、ほとんど分岐しないで基部は紅色をおびます。葉は互生し短い柄があり長楕円状披針形です。茎の頂きに一方に傾いた総状花序を作り、多数の小さな白い花を密につけます。名は岡虎の尾の意味で、岡によく見られ花穂がトラの尾に似ることによるそうです。



アワモリショウマ(ユキノシタ科)

近畿地方以西～九州の山地などに自生しますが、観賞植物として庭園に植えられる多年生草本です。葉は2～4回三出複葉、小葉は披針形、基部はくさび形、堅くて光沢があります。上部に円錐花序を出して、多数のピンクの小花をつけます。名は泡盛升麻の意味で、泡が集まったような花を形容して名付けられたと思われれます。



シモツケ(バラ科)

山地の日当たりのよいところに生える高さ 1m 内外になる落葉低木。枝は褐色。葉は互生して狭卵形～卵形、縁に鋸歯があります。花は散房状にむらがって小さな 5 弁花をつけ、普通は淡い紅色。おしべは多数でフワツとした花姿に見えます。和名は、生育地の下野国からつけられた名です。



エゾアジサイ(アジサイ科)

日本海側の山地に生える落葉低木です。太平洋側に多いヤマアジサイに近い植物ですが、葉と花は本種のほうが大きいようです。枝先に淡紫色の小さな両性花と周囲に、萼片が変化した装飾花をつけます。装飾花は鮮やかな青紫色、時には淡紅色、白色を帯びます。アジサイの名は青い花がかたまつて咲く様子からつけられたようです。



ノハナショウブ(アヤメ科)

山野の草原や湿原に生える多年草でハナショウブの原種です。葉の幅が狭く中肋があり、太くはつきりしたすじとなる特徴があります。赤紫色の花を開き基部は黄色です。全体が細長く外花被片は楕円形、内花被片は小さなへら形で直立していることで、ハナショウブとは区別できます。名は野生のハナショウブの意味だそうです。



シラタマノキ(ツツジ科)

中部以北の亜高山帯以上の草地等、比較的乾燥した場所に生える常緑小低木。高さは30cm程度。葉は互生し、鋸歯を持つ楕円形で3cm程度の大きさです。5mm程度のドウダンツツジのような釣鐘型の花を3個つけます。花後の果実が真っ白なので、別名シロモノと呼ばれます。これを潰すとサリチル酸の臭いがします。



ペントステモン(オオバコ科)

ペンステモンとも言われていますが、北日本の山地に自生するイワブクロの仲間で、北アメリカに分布する多年草です。花筒は長く先は5裂します。ペントはギリシア語で5の意味、ステモンは雄しべの意味だそうです。雄しべが5個あるように見えることから、名がついたようです。ただし、その中の1個は仮雄しべだそうです。



リナリア(オオバコ科)

ヨーロッパや北米を中心に、世界に広く分布する多年草。金魚のしっぽのような形をした小さな花を長く伸ばした花茎にたくさん付けるので「ヒメキンギョソウ」とも言われます。花冠は2唇形で、基部は筒状の距になります。多種ありますが、本種はすみれ色の花を付けるリナリア・プルプレアです。



オオバギボウシ(キジカクシ科)

山野の草地や林内などに生える多年草です。葉は大きく幅が広く長い柄があり、基部は心形です。花は白色またはわずかに紫色を帯びるようです。トウギボウシも咲いていますが、花茎はそれほど高くなり、葉が粉白を帯びています。名は、橋の欄干に取り付けられている擬宝珠(ぎぼうし)につぼみが似ているからのようです。